



# 真理の多形性

— F・W・グラフ博士の来日記念講演集 —

著者	フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラフ著
監訳	安酸敏眞
訳	コーディー・ブランスカム、小柳敦史、 鐸木道剛、森川慎也
版型	A5 版
ページ数	304
製本	上製本
発行日	2020 年 3 月 31 日
ISBN	978-4-910236-00-1 C3014
定価	本体 4,200 円 + 税

## 内容紹介

グローバリゼーションの波が世界の隅々までを覆いつくした今、かつて人々の生活と文化の中心を占めていた宗教や神学は、瀕死の状態にあるのだろうか？ ドイツでノーベル賞に次ぐ学術的権威とされる「ライプニッツ賞」を神学者として初めて受賞したフリードリヒ・ヴィルヘルム・グラフ博士の見解はそうではない。2019 年秋、日本を訪れて東大、京大、北海学園大学など各地で講演を行ったグラフ博士は、日本の研究者と学生たちを前にこう語った。

「ほぼすべてのヨーロッパ社会において、長年にわたり社会構造のあるべき状態をめぐって根本的な対立が繰り広げられてきました。そして私たちはこのように問いかけてきました。——異なる信念と信仰を持つ人たちが平和に共生できるためには何が必要なのか？」

イスラム過激派によるテロ、難民問題、ブレグジット……現在、世界各国で吹き荒れる“排外的ポピュリズム”の根ざすところを理解し、問題を解決するヒントを神学は与えてくれる。そのキーワードが「真理の多形性」なのである——。神学・宗教学のみならず、哲学、倫理学、歴史学、社会学、政治学に至るまで該博な知識を駆使し、「役に立つ神学 (Theologie, die gebraucht wird)」をモットーとするドイツの「神学の巨人」は、今、何を考えているのか。現実世界と切り結ぶその最新の研究成果を語りつくした貴重な講演録を代表論文のハイライトとともに完全収録。北海学園大学出版会創刊の書。

## 著者紹介

### Friedrich Wilhelm Graf (フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ)

1948年生まれ、ヴッパータール、チュービンゲン、ミュンヘンにて神学、哲学、歴史学を学ぶ。ハンブルク防衛大学教授、アウクスブルク大学教授などを経て、現在はミュンヘン大学プロテスタント神学部組織神学・倫理学講座名誉教授。トレルチ協会名誉会長。近代社会における宗教的言説の生成と展開を、歴史的・社会的コンテクストとの相互作用の中で解明しようとする「神学史」叙述の第一人者として知られている。1999年には神学者として初めてライプニッツ賞を受賞した。また、新聞などのメディア上で、今日の社会問題や宗教問題に関する論説も多数発表している。著書はDer heilige Zeitgeist. Studien zur Ideengeschichte der protestantischen Theologie in der Weimarer Republik, Tübingen 2011、Die Wiederkehr der Götter. Religion in der modernen Kultur, München 2004 他多数。邦訳書には『プロテスタンティズム』(教文館、2008年)、『トレルチと文化プロテスタンティズム』(聖学院大学出版会、2001年)などがある。

## 目次

### 訳者まえがき

#### 第一部 講演編

第一章 ヨーロッパの多様性とEUの現状

第二章 宗教とグローバル化

第三章 人文学の学問性をどのように担保するのか

——研究不正と戦うためのガイドライン

第四章 十九世紀ドイツの学問的神学をめぐるパラドクス

第五章 トレルチ『社会教説』の現代的意義

第六章 イエスを信じること、イエスが私たちを信じること

——『マタイによる福音書』第十六章十三—二十節についての説教

#### 第二部 論文編

論文一 真理の多形性

——ドイツ文化プロテスタンティズムの今日的意義について

論文二 近現代の宗教を解釈する

(『神々の帰還—近現代文化における宗教』より一部抜粋)

[付録] 私の「日本滞在記」

解題 グラーフ博士と「真理の多形性」